

3 月度 土曜例会 Zoom

2022 年 3 月 12 日

Guest speaker; Mr. Yann Becker (Switzerland, Lausanne)

Title ; Attraction of Japanese Landscapes.
Images and Notes from Wanderings

12 年前に来日され、すっかり大阪に馴染まれたヤンさんの 3 回目の講演を Zoom
でお願いしました。25 名の方が参加されました。

最初に、4/14 から 4/26 まで京都のギャラリー古都で開かれる「大阪物語」写真展の
紹介がありました。(13 年間温めていたものです)

2:00 から 6:00 までは会場にいますので、お時間がありましたらいらして下さい。



今回は、鈍行とヒッチハイクと徒歩プラス自転車で訪ねた日本の自然と風景について
のお話と写真を見せていただきました。

山、海、島や小さな農村や川は私を強く惹きつけます。

子供の頃、スイスのジュラ山脈をハイキングした頃の記憶がそうさせるのかもしれませ
ん。

ハイキングが好きで、大阪をはじめ、京都、奈良、和歌山、兵庫、長野などの山をよく
訪ね、海や村の写真を撮り歩いています。1日に10kmから15km位は歩きます。

大阪での移動は自転車が便利なのでよく使いますし、電車も利用します。

私は自動車の免許を持っていませんが、その内に免許を取って、列車とレンタカー
での旅も考えています。

日本は安全な国で、ヒッチハイカーにも車がよく止まってくれます。

「ラストサムライ」にあやかって、自分を「ラストヒッチハイカー」だと言っています。

ドライバーは、私が日本語をしゃべると、非常に喜んでくれます。

ヒッチハイクでは、知らない色々な所へ連れて行ってくれる有難いドライバーがいるし、
泊まる所も予約していないので、時には自宅にとめてくれる人もいます。

(デイナー付きの場合もあります。)

バスは時間が合わないと 3 時間位待つこともあり、その時は松尾芭蕉のように歩きます。出来ることなら、将来は松尾芭蕉のように歩いて日本を周ってみたいとも思っています。

歩くのが好きだから歩いているのですが、歩いていて交差点で車をキャッチして、知らないどこかへ行くという機会に恵まれるのも面白いです。

安くて 5 日間使える青春切符を使って、鈍行でゆっくりした旅行するのも好きです。

東北旅行

2017 年 8 月に大阪の夏の暑さを避けて 1 か月位、東北旅行をしました。

5000 枚位の写真を撮りました。青春切符を使って長距離を移動し、バスやヒッチハイクやレンタサイクルそして徒歩の旅でした。

7 日分の着替えをいれた小さなリュックサックとカメラバッグという軽装で、ホテルは予約せず、観光センターで 5000 円位のビジネスホテルで泊まるというスタイルでの旅行です。

朝 6:00 に大阪を発ち、米原、岐阜、静岡を経て、7 時間かけて伊豆に到着し、2 日間伊豆半島をめぐる、葉山ビーチを経て、東京へ行き、2 日後宮城県に向かいました。

日本三景の松島では、芭蕉の足跡を訪ね、フェリーに乗って見学し、山形の銀山温泉に向かい、その後、青森・秋田をめぐるしました。

秋田では男鹿半島を訪ね、青森では、十三湖(ここには青池という美しい blue pond がある; 白神山地の一角)、津軽富士と呼ばれる岩木山、津軽半島と竜飛岬を訪ねました。古い小さな村や廃屋の昭和の香りが残る寂しい風景が印象的でした。

下北半島はバスで周り、フェリーで函館に渡り、レンガ倉庫や古い建物をめぐり、寿司を楽しみ、翌日は朝市でイカを食べました。

フェリーで戻り、大間ではマグロ・ウニ丼を楽しみました。

下北エリアは自転車でも周り、寄り道をして新たな発見があり、陸奥ではねぶた祭ではないが大きなダンジリが出ており、阿波踊りのような踊りも見ることができました

津波が襲った三陸海岸を下り、田中さんという高校教師であった人に出会い、コンクリートでできた巨大な津波の防潮堤を教えてもらいました。

東京に戻り、2 日間いて、9 時間かけて大阪に帰ってきました。

2019 年、安藤忠雄の夢舞台で有名な淡路ウエスティンホテル(現在はグランドニッコー淡路)から写真展のプロポーザルがありました。

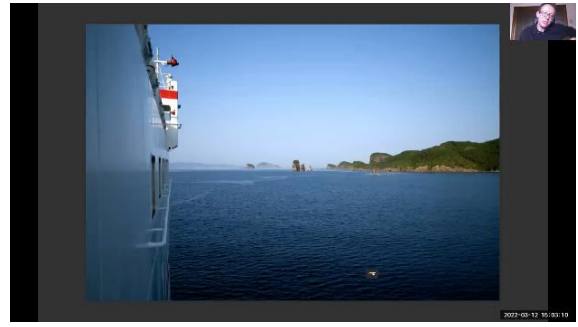
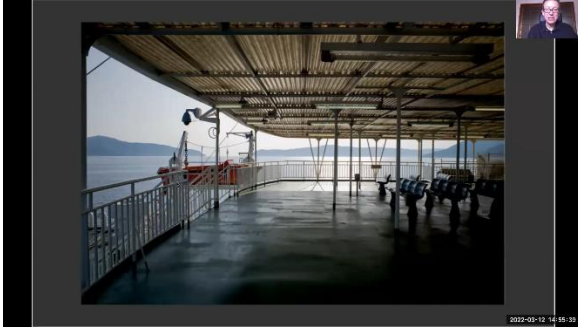
「大阪物語」などの西成のポートレイトなどを見せましたが、ホテル展示には難しいということで Sea and Island を提案しました。

境港からフェリーで隠岐の島に行った時の写真、鳥取の海岸、瀬戸内海の島々、そ

して福井の景色を写真に収めて”Notes from the Islands”という表題で写真展を開催しました。

”Notes from the Islands”

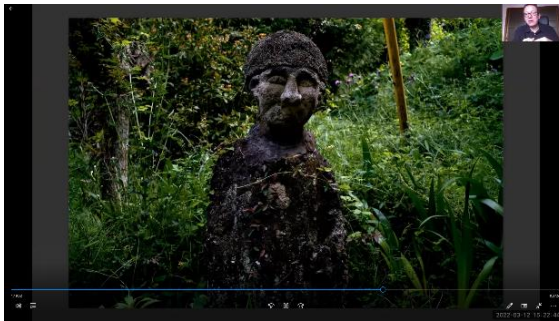
境港から隠岐の島へ; 5月



隠岐の島の神社

言い伝えでは日本最古の神社の守護の木像

石像



隠岐の島の野生馬

西ノ島

草が短い



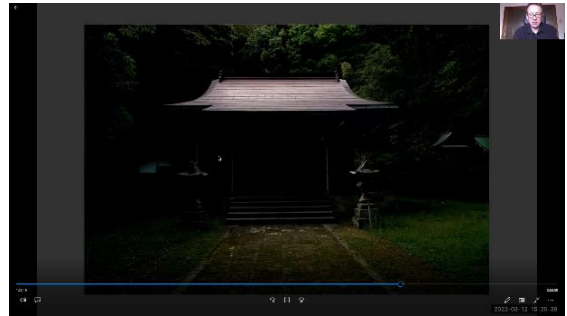
隠岐の島の牛



隠岐の島の神社の御神木



岐の島の神秘的なイメージの社



隠岐の島の夜

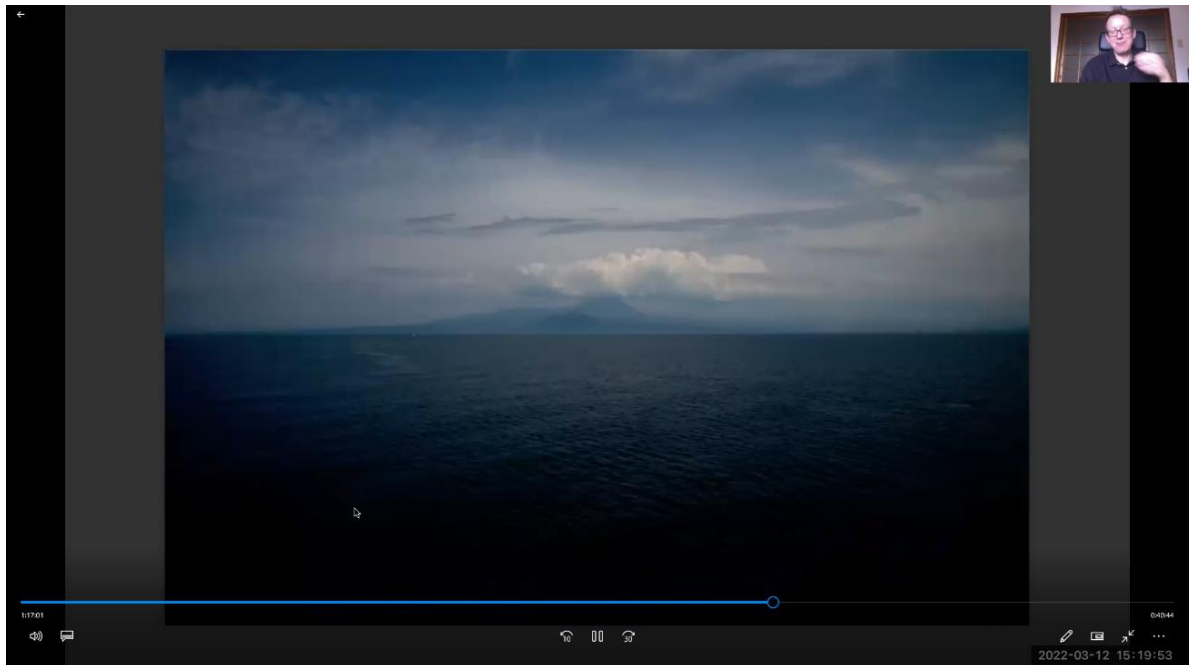
暗闇の中の灯りが寂しいが
ミステリアスな雰囲気
を醸し出しています。



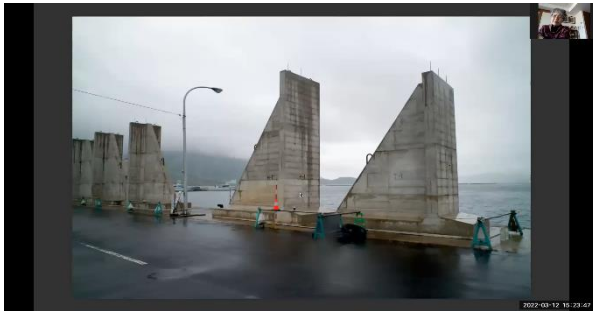
Birth of Island

フェリーから大山を望む

島が海から生まれたようなイメージを抱きました。



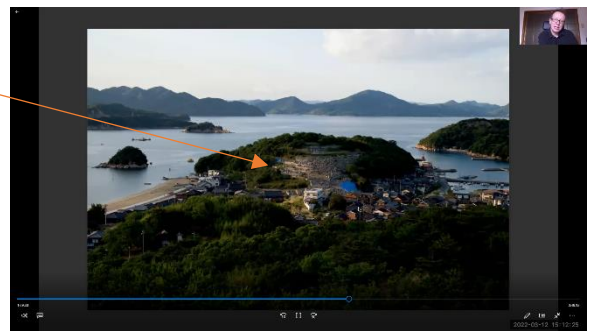
境港で見た巨大な消波ブロック



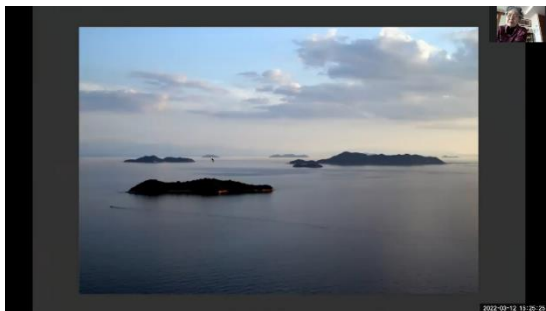
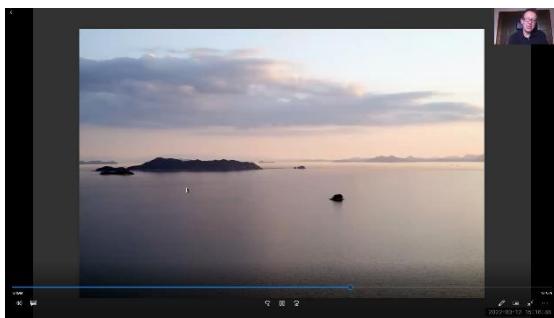
船の帆のようなコンクリート

瀬戸内海の笠岡諸島の島々

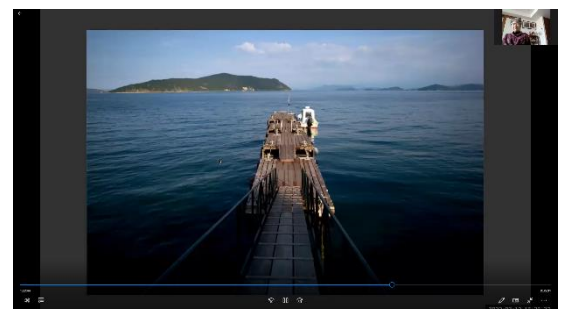
お墓が町の広さより広い。
イタリアやスコットランドの墓に
比べてシンプルで小さい。
ベトナムのカラフルな墓とも違う。



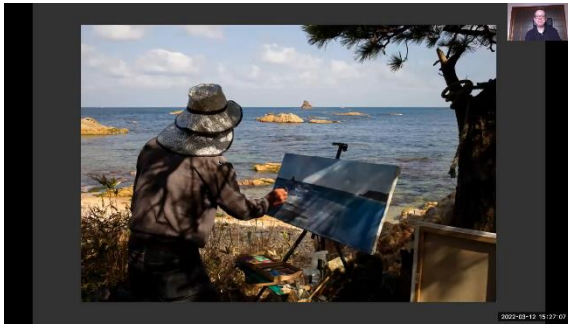
おそらく、真鍋島



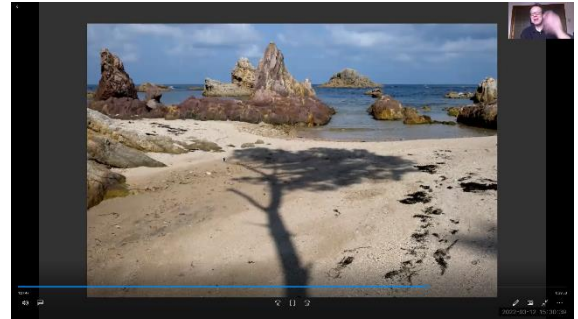
真鍋島のフェリーが到着する場所



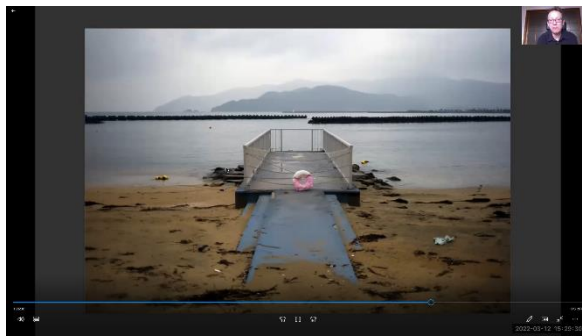
鳥取の浦富海岸



松の長い陰と岩の色合いが面白い。

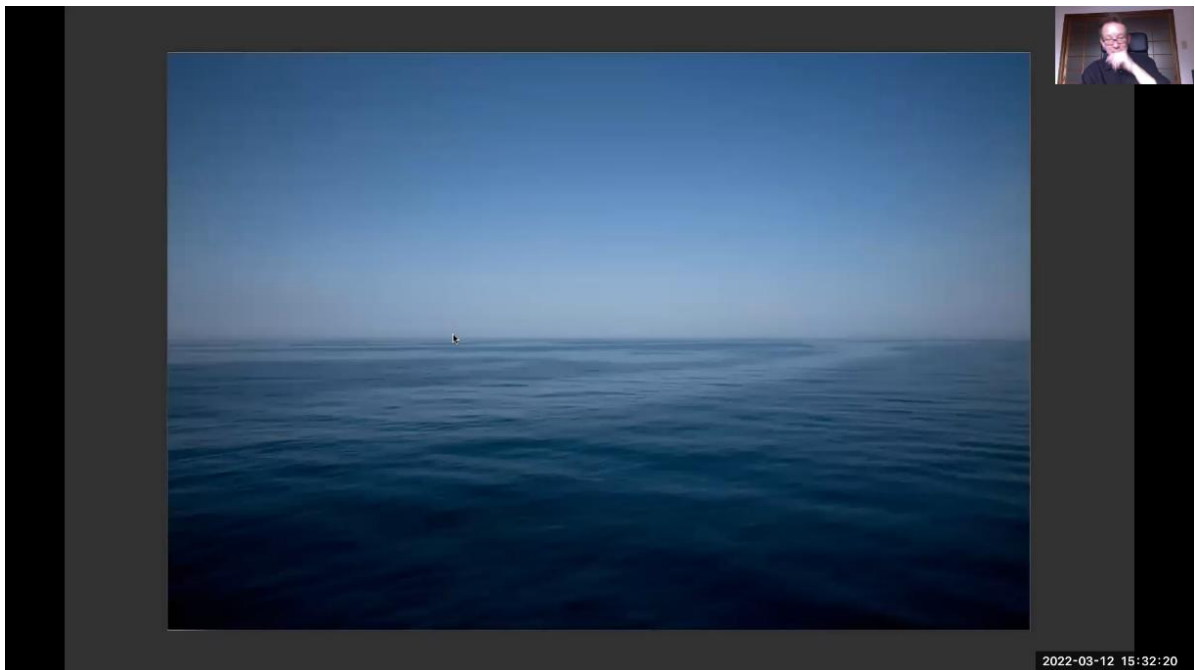


福井

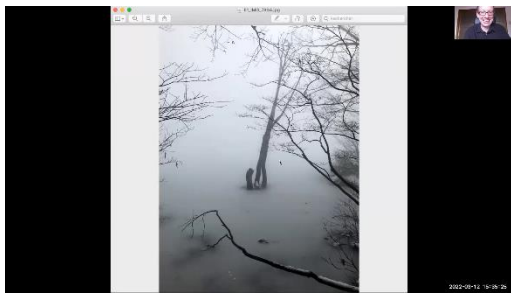
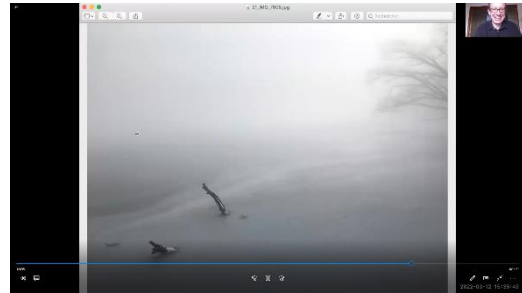
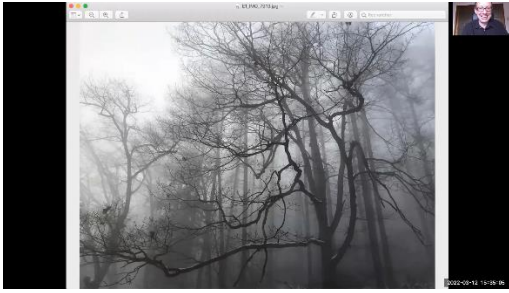


12月の海岸には誰もいなくて寂しい。
グレイに沈んだ中にピンクの浮き輪が温かさを添えていました。

これが、”Notes from the Islands”の最後の写真

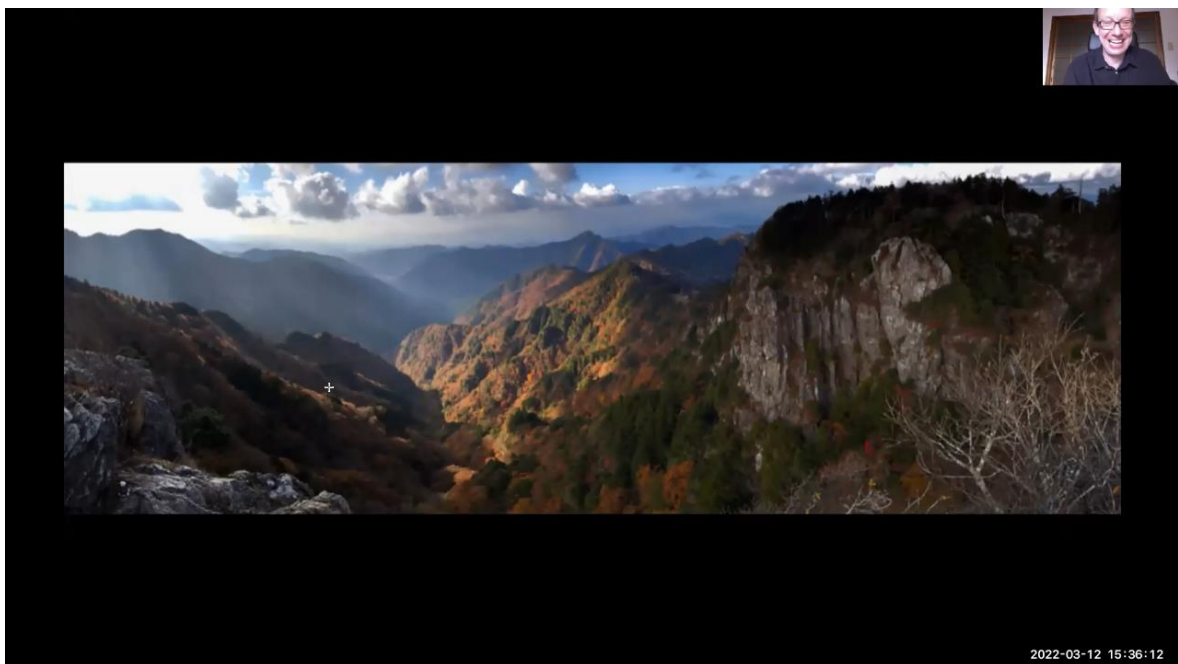


付録



黒と白の世界
凍りついた冬の長野の山を
歩くには、カンジキが必要です。

最後に 12 月のはじめ 3 日間、大峰山を歩いた時の写真をお見せします。



次回は、6-7 日間かけて、吉野から本宮まで歩いてみたいと考えています。